

肢

国民年金保険 診断書 (肢体の障害用)

氏名		住所		生年月日		昭和 平成 令和		年 月 日 生(歳)		性別		男・女	
		住所地の郵便番号		都道府県		市区							
① 障害の原因となった傷病の名				② 傷病の発生年月日		昭和 平成 令和		年 月 日		診療録で申立(日)		確認	
				③ ①のため初めて医師の診療を受けた日		昭和 平成 令和		年 月 日		診療録で申立(年 月 日)		確認	
④ 傷病の原因又は誘因		初診年月日 (昭和・平成・令和 年 月 日)		⑤ 既存障害				⑥ 既往症					
⑦ 傷病が治った(症状が固定して治療の効果が期待できない状態を含む。)かどうか。		傷病が治っている場合 …… 治った日		平成 令和		年 月 日		確認		推定			
		傷病が治っていない場合 …… 症状のよくなる見込		有		無		不明					
⑧ 診断書作成医療機関における初診時所見 初診年月日 (昭和・平成・令和 年 月 日)				診療回数		年 間		回					
⑨ 現在までの治療の内容、期間、経過、その他参考となる事項				身長		体重		cm kg		血圧		最高 最低	
⑩ 計測年 月 日計測)												mmHg mmHg	
障害		の		状態		態		(平成・令和 年 月 日現症)					
⑪ 切断又は離断		右		左		右		左					
切断又は離断日 平成・令和 年 月 日		切断		× 変形		感覚麻痺		運動麻痺					
創面 治ゆ日 平成・令和 年 月 日													
⑫ 脊柱の障害		部位		前屈		後屈		右側屈		左側屈		右回旋	
		頸部											
		胸腰部											
⑬ 人工関節の装着状態		部位		手術		日 平成・令和 年 月 日		⑭ 握力		右		左	
⑮ 手(足)指関節の可動域		部位		位置		母指		示指		中指		環指	
						屈		伸		屈		伸	
		中手(足)指関節間関節(MP)				右		左					
		近位指節間関節(PIP)				右		左					
		(母指では指節間関節)				左							

本人の障害の程度及び状態に無関係な欄には記入する必要はありません。(無関係な欄は、斜線により抹消してください。)

(お願い) 太文字の欄は、記入漏れがないように記入してください。

(お願い) 障害の状態は、診療録に基づいてわかる範囲で記入してください。

(お願い) 関節可動域は、健側についても記入してください。

障 害		の 状 態		(平成・令和		年 月 日		現 症)								
部	位	運動の種類	右			左										
			関節可動域 (角度)		筋力	関節可動域 (角度)		筋力								
			強直脱位	他動可動域	正常 やや減 半減 著減 消失	強直脱位	他動可動域	正常 やや減 半減 著減 消失								
⑩ 関節可動域及び筋力	肩 関 節	屈 伸 内 外														
	肘 関 節	屈 伸 内 外														
	前 腕	回 内 回 外														
	手 関 節	背 掌 屈 屈														
	股 関 節	屈 伸 内 外														
膝 関 節	屈 伸 屈 展															
足 関 節	背 底 屈 屈															
⑪ 四肢長及び四股囲			右						左							
			上肢長	上腕囲	前腕囲	下肢長	大腿囲	下腿囲	上肢長	上腕囲	前腕囲	下肢長	大腿囲	下腿囲		
			cm	cm	cm	cm	cm	cm	cm	cm	cm	cm	cm	cm		
⑫ 日常生活における動作の障害の程度	補助用具を使用しない状態で判断してください。												右		左	
													日常生活における動作		日常生活における動作	
	a つかまむ	(新聞紙が引き抜けない程度)			m 片足で立つ	(正座、横すわり、あぐら、脚なげだし)										
	b 握る	(丸めた通利紙が引き抜けない程度)			n 座る	(このような姿勢を持続する)										
	c タオルを絞る	(水をきれる程度)			o 深くおじぎ (最敬礼) をする											
	d ひもを結ぶ				p 歩く (屋内)											
	e さじで食事をする	(顔に手のひらをつける)			q 歩く (屋外)											
	f 顔を洗う	(スボンの前のところに手をやる)			r 立ち上がる											
	g 用便の処置をする	(尻のところに手をやる)			s 階段を上る											
	h 用便の処置をする	(かぶりシャツを着て脱ぐ)			t 階段を下りる											
i 上衣の着脱	(ワイシャツを着てボタンをとめる)	両手														
j 上衣の着脱	(どのような姿勢でもよい)	両手														
k スボンの着脱	(どのような姿勢でもよい)	両手														
l 靴下を履く	(どのような姿勢でもよい)	両手														
⑬ 使用状況	平衡機能		1 閉眼での起立・立位保持の状態		2 閉眼での直線の10m歩行の状態		3 自覚症状・他覚所見及び検査所見									
	ア 可能である。 イ 不安定である。 ウ 不可能である。	ア まっすぐ歩き通す。 イ 多少転倒しそうになったりよろめいたりするがどうにか歩き通す。 ウ 転倒あるいは著しくよろめいて、歩行を中断せざるを得ない。														
⑭ その他の精神・身体障害の状態																
⑮ 現症時の日常生活能力 動能力及び労働能力 (必ず記入してください。)			(補助用具を使用しない状態で判断してください。)													
⑯ 予後 (必ず記入してください。)																
⑰ 備考																

股関節屈曲
値は次のど
ちらですか。
1 膝屈曲位
2 膝伸展位

上記のとおり、診断します。 年 月 日

病院又は診療所の名称

診療担当科名

所在地

医師氏名

印